

名
預言者たち
聖徒伝 142

「私を生かす 愛の約束」

ホセア書1～3章

姦淫のイスラエル

アウトライン

0. イントロダクション

I. 姦淫のイスラエル 1章

II. 懲らしめと憐れみ
回心と回復 2章

III. 迎える懲らしめの期間 3章

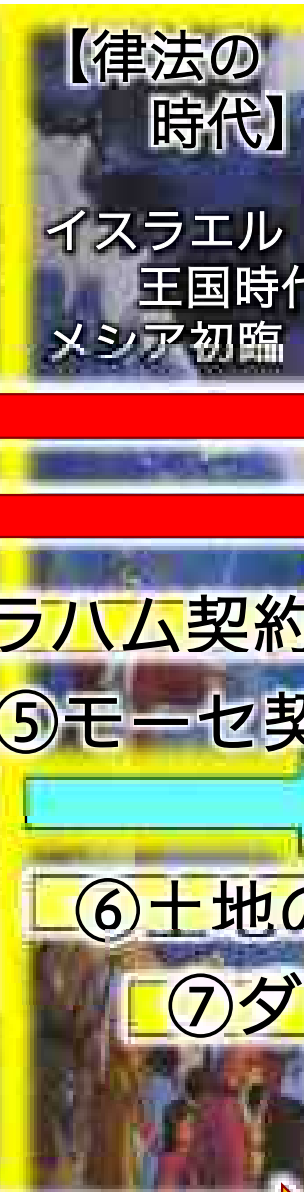
IV. まとめと適用

神の痛み、

神の愛を味わい知ろう。



イスラエル平原



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

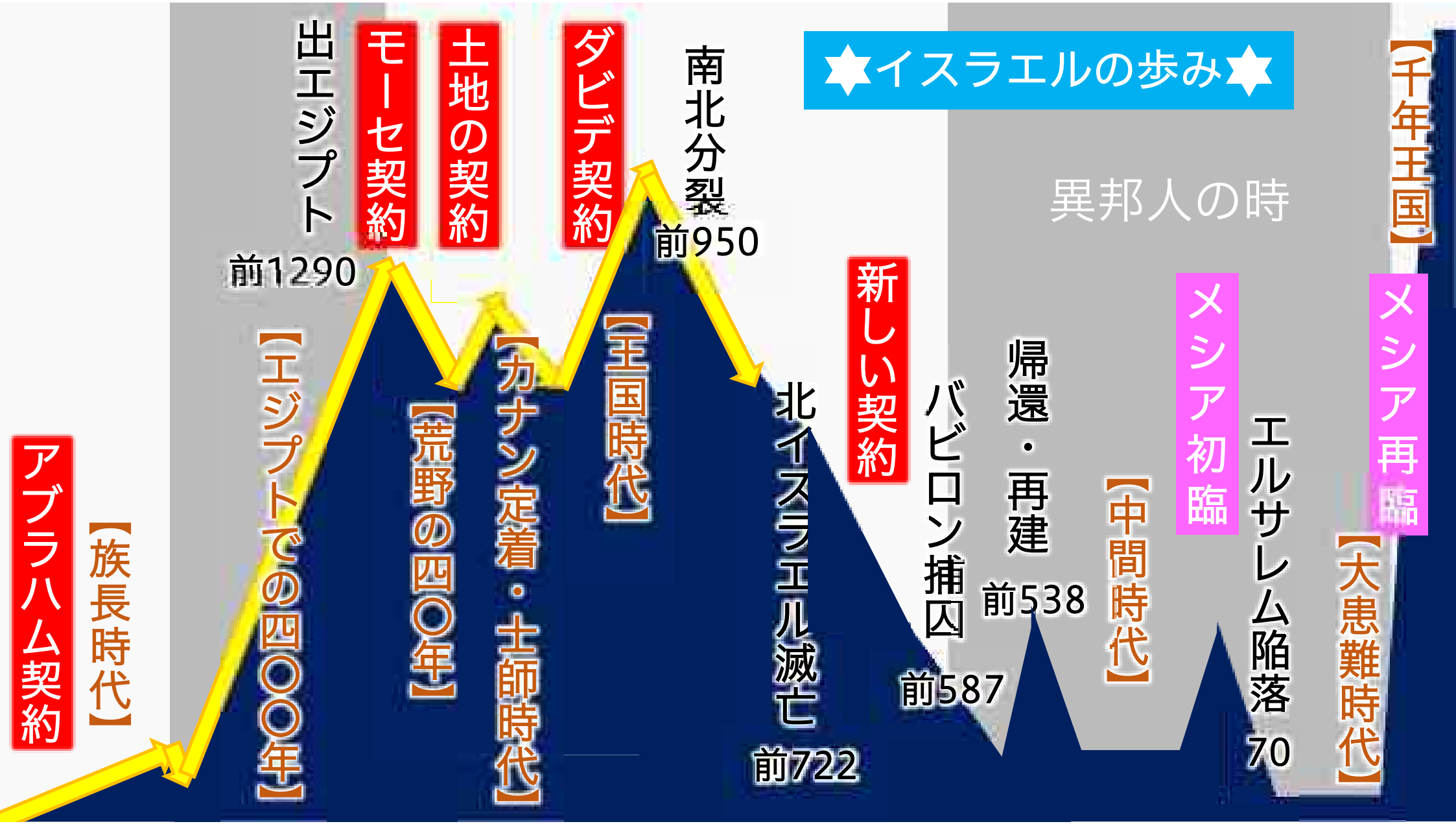
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

新しい契約

メシア初臨

メシア再臨

アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

バビロン捕囚

【中間時代】

エルサレム陥落

【大患難時代】

【千年王国】

ホセア書とは？

■ **著者** … **ホセア** = “主は救う”

父はベエリ = “我が満足” … 父も信仰者。

■ **出身・活動の場** … 北イスラエル

■ **時代** … ヤロブアム2世 (北王国) ~

(南は、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ)

■ **背景** … 偶像崇拝に染まり、裁きは間近に!!



ホセアは身をもって、主の哀しみと憐れみ、永遠の愛を伝えた



迫るアッシリアの脅威

- 古代から存在。BC10～7世紀の新アッシリア後期に世界帝国に。
- BC722には、北王国・イスラエルを滅ぼす。(アッシリア捕囚)
→北王国の滅びは、ホセアの時代にやってくる!!

ホセア書の構成

① 姦淫の女との結婚 (1~3章)

姦淫の女の不義と復縁、猶予期間へ

① 姦淫の罪

② イスラエルへの裁き (4~13章)

数々の姦淫の罪の告発

② 懲らしめ・猶予

③ 終末の裁き

③ イスラエルの回復 (14章)

永遠に主の妻となるイスラエル

④ 復縁・回復



【預言者ホセアが告げたこと】





Ⅰ. 姦淫のイスラエル

ホセア書1章

イズレエル平原

【預言者ホセアが告げたこと】

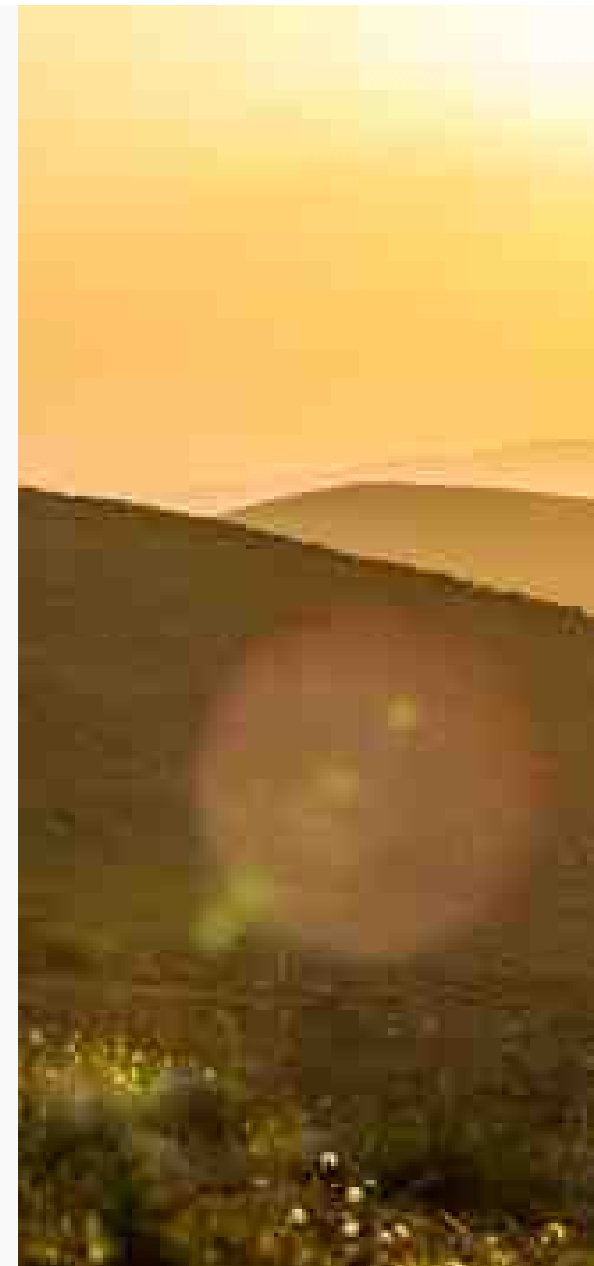


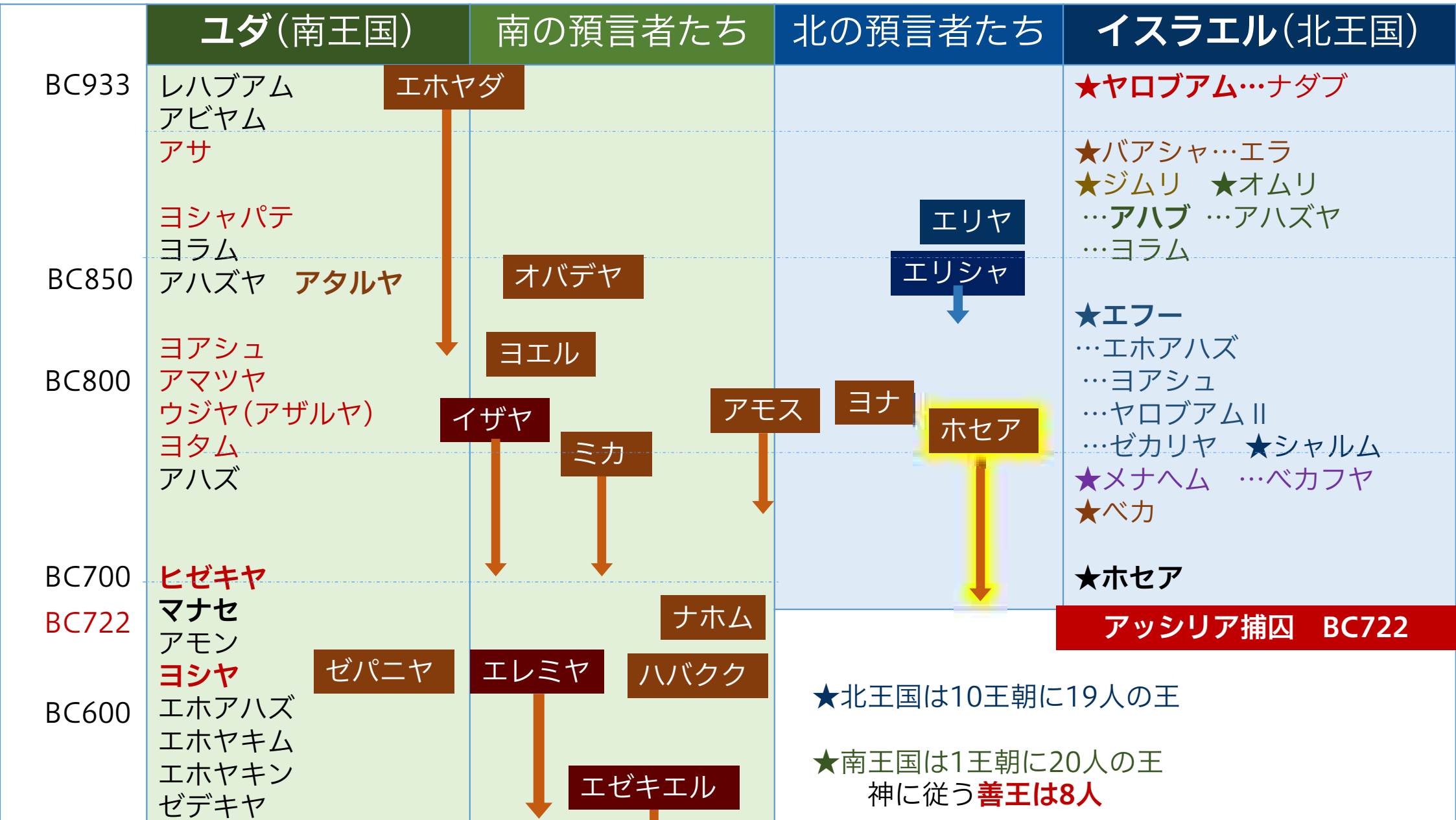
召命 主のことば ホセア書1:1

ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代、イスラエルの王、ヨアシユの子ヤロブアムの時代*に、ベエリの子ホセアにあった【主】のことば。

* 正統な南王国は4代の王の名が記された一方、北王国はヤロブアム二世の1代だけ。

➔ ヤロブアム二世以降の北王国は、混乱の極み。





★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

召命 姦淫の花嫁 ホセア書1:2~3

【主】がホセアに語られたことのはじめ。【主】はホセアに言われた。「行って、姦淫の女と姦淫の子らを引き取れ。この国は【主】に背を向け、淫行にふけっているからだ。」

彼は行って、ディブライム*の娘ゴメル*を妻とした。彼女は身ごもって、彼に男の子を産んだ。

*“二つの菓子”…なつめやしの菓子。肉欲を象徴

*“完全な”…完全な欲望。

■ 神の痛みを身をもって知らされるために、
結婚した相手は、肉欲のままに生きる女性!!

預言者の一つの使命



命名 長子イスラエル ホセア書1:4～5

【主】は彼に言われた。「その子をイスラエル*と名づけよ。しばらくすれば、わたしがイスラエルでの流血のゆえにエフーの家を罰し*、イスラエルの家の王国を終わらせるからだ。その日、わたしはイスラエルの平原で、イスラエルの弓を折る。」

*“神は散らす、神は撒く”

*アハブ王朝とイゼベルは、イスラエルで絶たれた。

■裁きの器として用いられたエフーは、必要以上の残虐行為を働き、自分自身、神に立ち返らず。

→暴虐と背信の報いがエフー王朝に下る



北王国 イスラエル

南王国 ユダ

エリシャ

ホセア

【エフー王朝】

アモス

エフー

ベカ

20年

エホアハズ

アツシリア捕囚①

28年

ヨアシュ

17年

ヤロブアムⅡ

ゼカリヤ

6ヶ月

16年

41年

シャルル

1ヶ月

南北時代の最盛期

ヨナ

メナヘム

10年

混沌の時代

ヨアシュ ♡

40年

アマツヤ ♡

29年

ウジヤ ♡

52年

ヨタム

ヨエル

イザヤ



ハル・メギド イズレエル平原

命名 長女口・ルハマ ホセア書1:6~7

ゴメルはまた身ごもって、女の子を産んだ。主は彼に言われた。「その子を口・ルハマ*と名づけよ。わたしはもう二度とイスラエルの家をあわれむことはなく、決して彼らを赦さないからだ。

しかし、わたしはユダの家をあわれみ*、彼らの神、【主】として、彼らを救う。ただし、弓、剣、戦い、あるいは馬、騎兵によって救うのではない。」

*“愛されない” …「愛されない子」ちゃん

← ドロドロネーム!?

*同時代のウジヤ王は善王。主は、超自然的な介入によってアッシリアから守られる(II列19:35)。



命名 次男口・アンミ ホセア書1:8～9

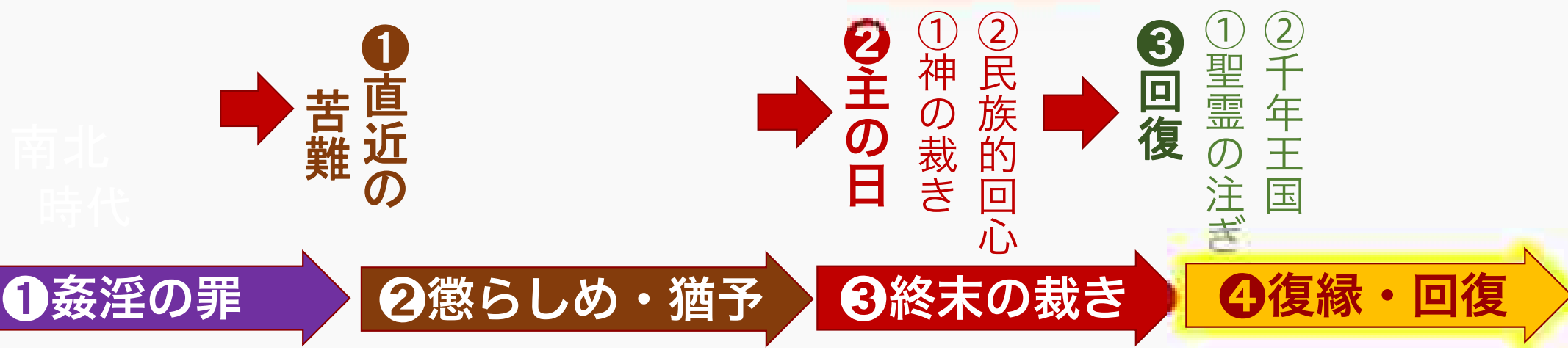
彼女は口・ルハマを乳離れさせると、身ごもって男の子を産んだ。

主は言われた。「その子を口・アンミ*と名づけよ。あなたがたはわたしの民ではなく、わたしはあなたがたの神ではないからだ。」

*“私の民ではない”…「民でない夫」くん



【預言者ホセアが告げたこと】



回復 将来の希望 ホセア書1:10

イスラエルの子らの数は、量ることも数えることもできない海の砂のようになる*。「あなたがたはわたしの民ではない」と言われたその場所で、彼らは「生ける神の子ら」と言われる。

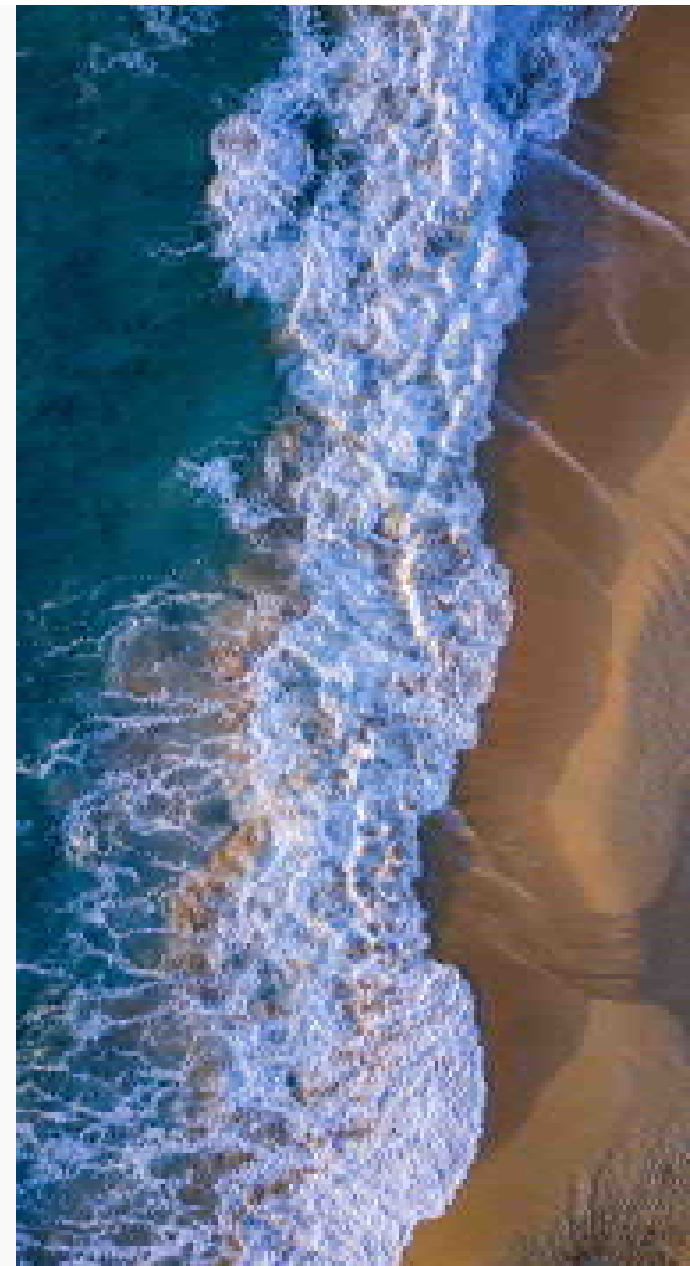
*アブラハム契約の子孫の繁栄の約束の成就。

■パウロが、10節をローマ9:25~26に引用。

➔福音を信じたユダヤ人と異邦人に適用。

■福音を信じた異邦人も、ユダヤ人信者と共に

「生ける神の子ら」と呼ばれる時が来る!!



回復 イズレエルの日 ホセア1:11

ユダの人々とイスラエルの人々は一つに集められ、
一人のかしら*を立ててその地から上って来る。ま
ことに、イズレエルの日*は大いなるものとなる。

*再臨のメシア、栄光の主、王の王イエス。

*イズレエルの二つの意味から

“神が散らされた”イスラエルは、
永遠の王国に、“神によって撒かれる”



イズレエル平原



II. 懲らしめと憐れみ 回心と回復

ホセア書2章

イズレエル平原

【預言者ホセアが告げたこと】



宣告 主の妻とは呼ばれない ホセア書2:1~2

言え。あなたがたの兄弟には、「わたしの民*」と。
あなたがたの姉妹には、「あわれまれる者*」と。

「問いただせ。あなたがたの母を問いただせ。彼女はわたしの妻ではなく、わたしは彼女の夫ではないから*。その顔から淫行を、その乳房の間から姦淫を取り除け。」

*背教のイスラエルに対して、信仰が生きるユダ。

*本来、イスラエルは「ヤハウエの妻」と呼ばれるが。



宣告 イスラエルの恥と死 ホセア書2:3~4

そうでなければ、わたしは彼女の衣をはぎ取って裸にし、生まれた日のようにして彼女をさらし、荒野のようにし、砂漠の地のようにして、渇きで彼女を死なせる。

彼女の子らを、わたしはあわれまない。彼らは姦淫の子らだから。

■妻イスラエルは、夫ヤハウエに見捨てられ別居状態に。

→アッシリア捕囚を象徴



宣告 イスラエルの偶像礼拝 ホセア書2:5

彼らの母は姦淫を行い、彼らをはらんで恥をさらした。彼女は言ったものだ。『私の愛人たち*の後について行こう。彼らはパンと水、羊毛と麻、油と飲み物をくれる』と。

*偶像と異邦の偶像礼拝者たち



宣告 道を見失うイスラエル ホセア書2:6~7

それゆえ、わたしは茨で彼女の道に垣根を巡らし、彼女が通り路を見つけないように石垣を積む。

彼女は愛人たちの後を追っても、追いつけない。彼らを捜し求めても、見つけれられない。彼女は言う。『私は初めの夫のところに戻ろう。あのころは今よりも幸せだったから』と。

■主が、イスラエルの偶像礼拝を絶たれるが、その時になって立ち返っても遅い。

→もはや裁きは免れない!!



宣告 剥ぎ取られる恵み ホセア書2:8～9

しかし彼女は知らない。このわたしが、穀物と新しいぶどう酒と油を彼女に与えたのを。わたしが銀と金を多く与えると、彼らはそれをバアルに造り上げたのだ*。

それゆえ、わたしはその時になれば、わたしの穀物を取り返す。その時期になれば、わたしの新しいぶどう酒を。また、彼女の裸をおおっているわたしの羊毛と麻をはぎ取る。

*主が与えた祝福を偶像に注いでしまった。

*姦通の妻に下された当時の罰則。



宣告 主の祭りの終焉 ホセア書2:10~11

今、わたしは彼女の恥を、愛人たちの目の前で暴く。彼女をわたしの手から救い出せる者はいない。

わたしは彼女のすべての喜びを、祭り、新月祭、安息日、すべての例祭を終わらせる*。

*律法が定める祭りは、本来、イスラエルに、神と交流する喜びをもたらすもの。

イスラエルの喜びは取り去られる。

➡これがホントの、「あとの祭り」



宣告 荒れすたれる神の民 ホセア書2:12~13

『これは、愛人たちが払ってくれた私への報酬』と彼女が言った、あのぶどうの木といちじくの木*を荒れすたらせる。わたしはこれを林に変えて、野の獣が貪り食うようにする。

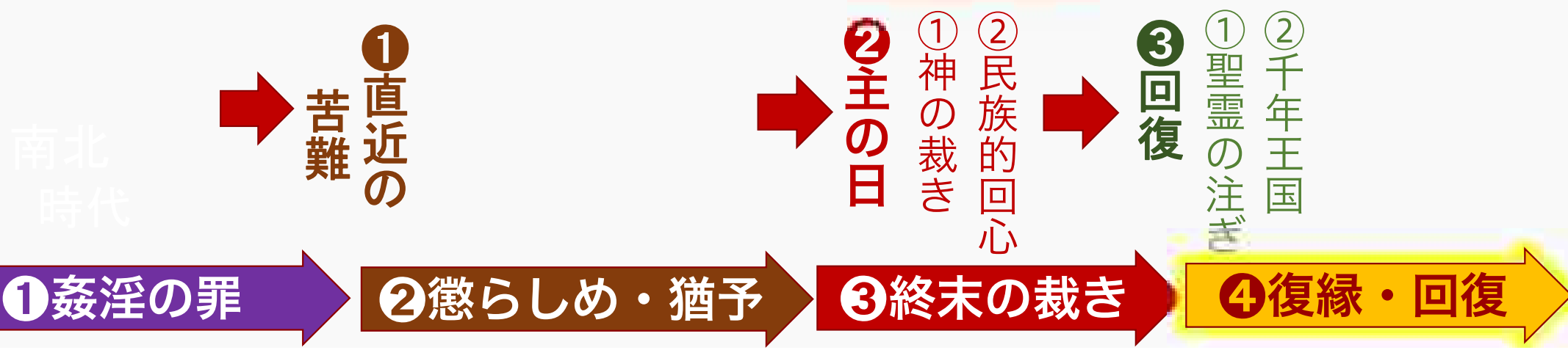
彼女がバアルの神々に仕えた日々のゆえに、わたしは彼女を罰する。彼女はバアルの神々に香をたき、耳輪や飾りを付けて愛人たちの後について行き、このわたしを忘れた。——【主】のことば。

*イスラエルとイスラエルの恵みの象徴。

➡イスラエルという存在自体が、
神の恵みだったのに…



【預言者ホセアが告げたこと】



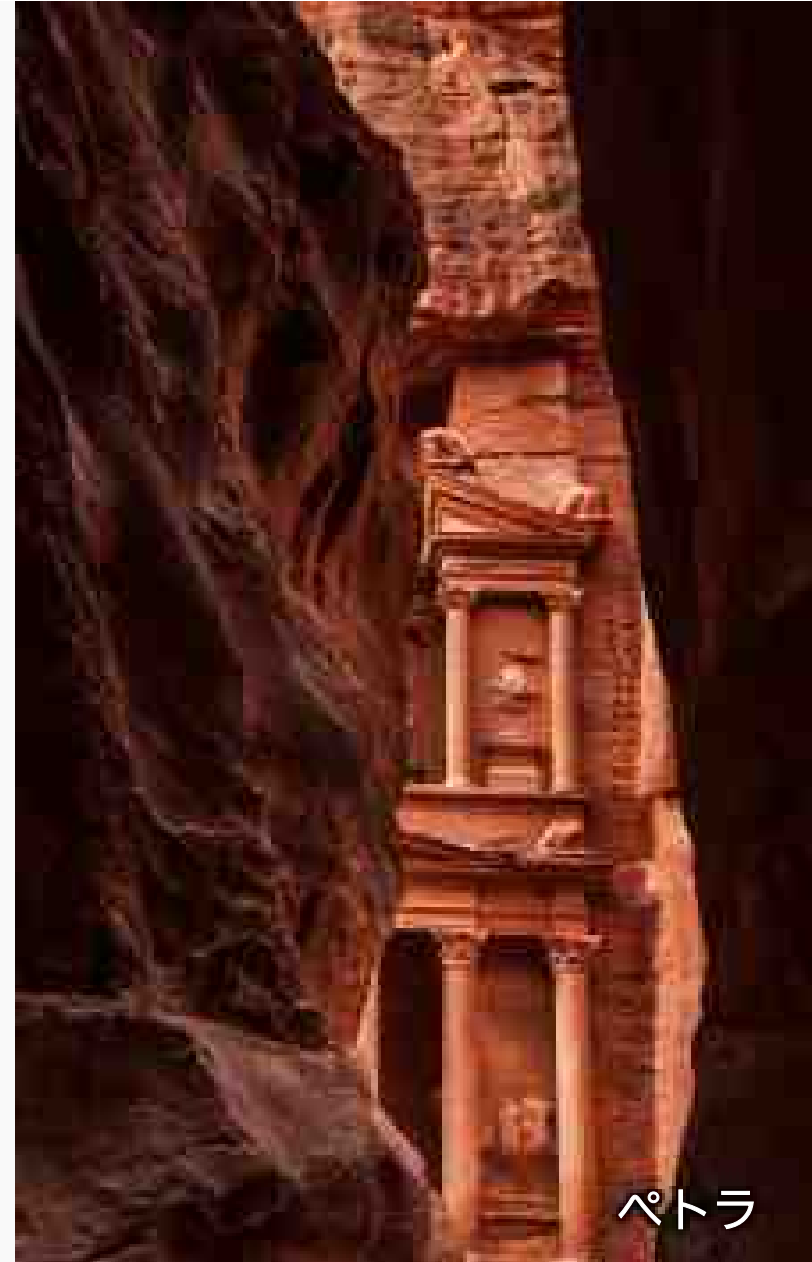
回復 荒野で ホセア書2:14

それゆえ*、見よ、わたしは彼女を誘い、
荒野*に連れて行って優しく彼女に語ろう。

*“…と (and)” →偶像崇拜の後に…

■終末の裁き・大患難時代の中間、
イスラエルは、反キリストの迫害を逃れ、
荒野のボツラ(現在のペトラ)*へ。

→荒野のボツラでイスラエルは守られ、
ついに民族的回心に至る。



ペトラ

回復 復縁 ホセア書2:15

わたしはそこを彼女のためにぶどう畑にし、アコルの谷*を望みの門とする。その場所で彼女は答える。若いころのように、エジプトの地から上って来たときのように。

*エリコ攻略の際、主に背いて打たれたアカンが葬られた場所。

■姦淫のイスラエルを主が連れ戻される。



回復 真実の主人 ホセア書2:16~17

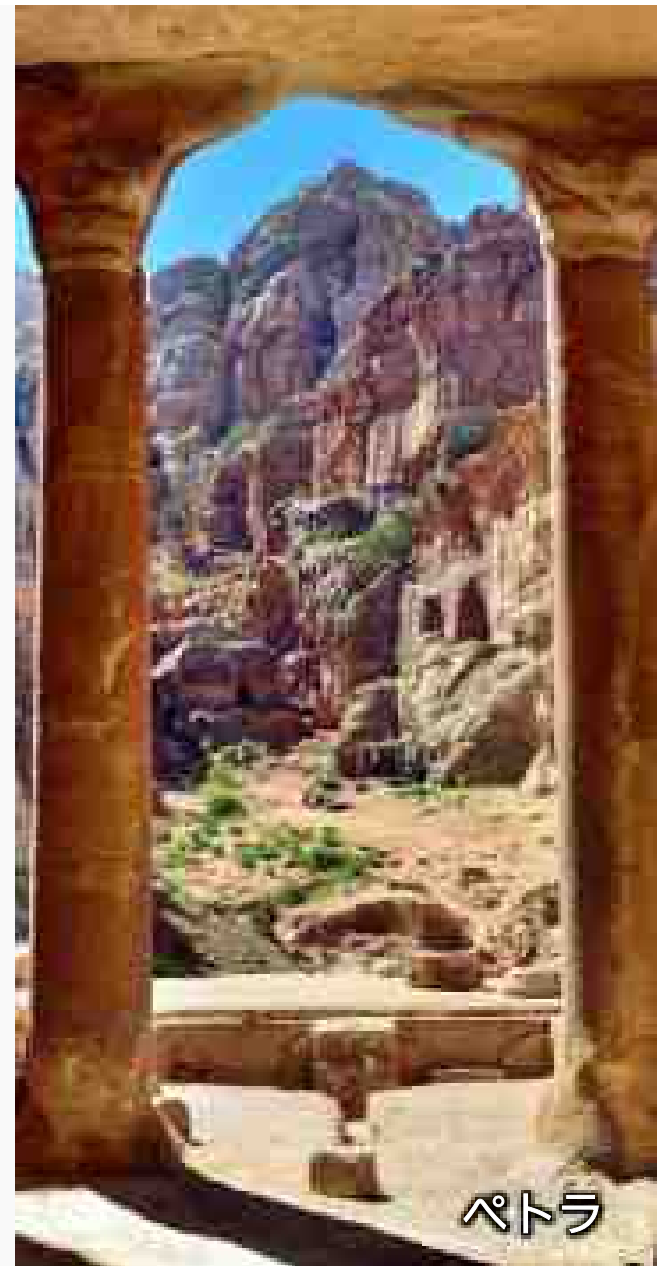
その日になると——【主】のことば——あなたはわたしを『私の夫』と呼び、もう『私のバアル*』とは呼ばない。

わたしがもろもろのバアルの名*を彼女の口から取り除く。その名はもう覚えられることはない。

*“主人”という意味も

*たくさんの主人がイスラエルにはいた。

→人の欲望の数だけ、偶像は多種多様。



ペトラ

回復 永遠の神の契約 ホセア書2:18

その日、わたしは彼らのために、野の獣、空の鳥、地面を這うものと**契約***を結ぶ。わたしは弓と剣と戦いを地から絶やし、彼らを安らかに休ませる。

わたしは永遠に、あなたと**契り***を結ぶ。**義とさばきと**、**恵みとあわれみ**をもって、あなたと**契り***を結ぶ。**真実**をもって、あなたと**契り***を結ぶ。このとき、あなたは【主】を知る。

■ 神と民との**永遠の婚姻***が地に平和をもたらす。

■ 神の**真実**は、**義と裁き**、**恵みと憐れみ**にある。



オリーブ山のアネモネ

回復 主の応え ホセア書2:21～22

その日、わたしは**応えて***言う。——【主】のことば——わたしは天に**応え***、天は地に**応え***、地は、穀物と新しいぶどう酒と油に**応え***、それらは**イスラエル***に**応える**。

- 主がイスラエルを懲らしめ、憐れみ、復縁し、荒野で回心に導き、悔い改めた民に、神の国の尽きぬ恵みを持って**応えられる***。
- 罪のために**散らされた***イスラエルが、神の国に、永遠の祝福のために**蒔かれる***



イスラエル平原

回復 神の民 民の神 ホセア書2:23

わたしは、わたしのために地に彼女を蒔き*、
あわれまれない者をあわれむ。わたしは、わた
しの民ではない者に『あなたはわたしの民』と
言い、彼は『あなたは私の神』と応える。」

*イスラエルは、イズレエルされる。

➔永遠の神の民として

永遠の神の国に蒔かれる。



III. 迎える懲らしめの期間

ホセア書3章

【預言者ホセアが告げたこと】



南北時代



① 姦淫の罪

② 懲らしめ・猶予

③ 終末の裁き

④ 復縁・回復

復縁 姦通の民への神の愛 ホセア書3:1

【主】は私に言われた。「再び行って*、夫に愛されているながら姦通している女を愛しなさい。ちょうど、ほかの神々の方を向いて干しぶどうの菓子をお愛しているイスラエルの子らを、【主】がお愛しているように。」

*ホセアの元を去り、娼婦に戻っていたゴメル。
墮した妻を愛するように主は命じた。

→主が、姦淫のイスラエルを
なお愛されているように。



復縁 買い取られた姦淫の妻 ホセア書3:2~3

それで私は、銀十五シェケルと、大麦一ホメルと
大麦一レテク*で彼女を買い取り、彼女に言った。
「これから長く、私のところにとどまりなさい*。
もう姦淫をしたり、ほかの男と通じたりしてはい
けない。私も、あなたにとどまろう*。」

*合わせると銀30シェケル分。

➔死なせた奴隷の賠償額と同じ。

主イエスは銀貨30枚で売られた。

■ 奴隷同然に身を落とした民が買い取られ、
神の元にとどめられる*。(保護された状態)

イスラエルの捕囚は
神に保護された
状態でもある



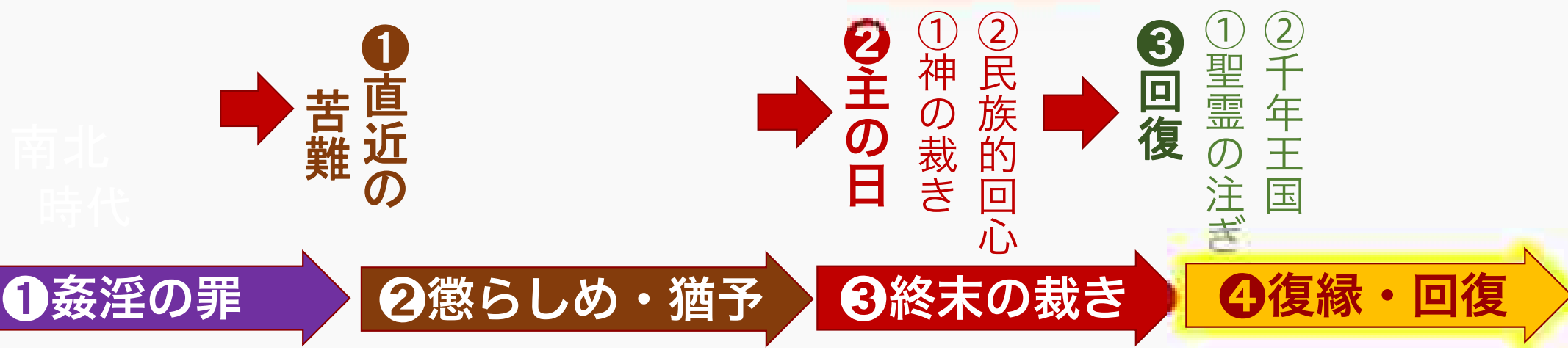
復縁 長い流浪の時 ホセア書3:4

これは、イスラエルの子らが、これから長く、王もなく、首長もなく*、いけにえも石の柱もない*ところに、エポデもテラフィム*もないところにとどまるからだ。

- イスラエルを待ち受けている長い流浪の期間。国を失い*、偶像崇拜は行わなくなる*が、主の臨在される神殿も*失ってしまう。
 - ➔ 捕囚からの帰還も、国の再興も部分的。いまだ、根本的な状況は変わっていない。



【預言者ホセアが告げたこと】



回復 最終的回復 ホセア書3:5

その後で*、イスラエルの子らは帰って来て、自分たちの神である【主】と、自分たちの王ダビデを尋ね求める。そして終わりの日*には、【主】とそのすばらしさにおののく。

*長い流浪の末に。

■大患難時代*の最後、イスラエルはついに民族的回心に至り、ナザレの主イエスをメシアとして仰ぎ求める。

➡栄光の主イエスが再臨、神の国を建設する。



オリーブ山とイスラエル



IV. まとめと適用

神の痛み、神の愛を味わい知ろう

オリーブ山に咲くアネモネ

律法(申命記)で、すでにモーセに告げられていたこと

「聞け、イスラエルよ。【主】は私たちの神。【主】は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。申6:4~5」

- ヤハウエの妻、イスラエルは全身全霊で主を愛するよう求められた。
→ すなわち、シナイ契約(律法)を守り、主だけを礼拝すること。
- 契約を守り、主に忠実であれば、祝福が下る(申28:1~14)。
- 契約を破れば、呪いを受け、約束の地を追われる。
それでも最終的には、回復され、永遠に地を継ぐ(申28:15~68)。

神の計画と民の選択 旧約時代と教会時代

- すべてのことは、神の計画通りに進展していく。
 - ➔ イスラエルの背き、懲らしめ、流浪、最終的回復に至るまで。
- 一方で、イスラエルの一人一人が、個々の選択の責任を問われる。
 - ➔ 主に信頼したか、拒み通したか。個の決断が永遠の運命を決定。
- 地上の教会も、主の計画通りに進んでいく。
 - ➔ 大きく成長する地域教会に、偽りの教えが広がり、浸透する。
 - ➔ 世界規模の悔い改めが起こるのは、大患難時代において
- 少数でも迫害の中でも、主を信頼し続けるよう、個々が求められる。

見捨てられないイスラエルと 私たちへの変わらぬ恵み

■ 姦淫のイスラエルを主は、厳しく裁いても、見捨てられなかった。アブラハムへの一方的な約束が、神の民を守り続けた。

→ ホセアは、身をもって神の痛み、神の愛を思い知らされた。

■ 恵みの時代の今、ただ福音を信じて救われ、永遠の神の民とされる。

→ 主に背けば懲らしめがあるが、救いが失われることはない。

主イエスが約束され、内に住まわれる聖霊が保証されている。

■ イスラエルの歴史を学ぶことは、主の永遠の愛を学ぶこと。

預言者の足跡を学ぶことは、身をもって神の愛を味わい知ること。

ホセアを通して、主の愛をますます深く味わい知らされていこう

★ 信仰の成長の過程で促されるホセアの道 ★

- 滅びを間近にしたイスラエルの姿は、今の私たちの世界に重なる。偶像、偽教師、偽キリストが、キリスト教界にまで侵食している。
- 神の痛みを味わい知らされるなら、神の憐れみが染み通っていく。主はどれほどに私たちを愛され、なお世界を保っておられることか。
- 父なる神は、愛する子らを叱責される。甘んじて受けよう。神の燃える怒りは、主イエスが私の代わりに負ってくださったから。主の目線で、イスラエルを哀しみ、世界を悼むことができたなら、はかりしれない神の愛を、この身で味わい尽くせることだろう。

神の痛みを身に刻み、主イエスの愛の業、福音宣教に遣わされよう

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。

わたしは、まぎれもない罪人です。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

幼子から脱却し、主の痛みを知る者へと成長させてください。

主よ、あなたはどれほどまでに、イスラエルを愛し、

愚かな異邦の民を 憐れまれていることでしょうか。

あなたの痛みと愛をもって、福音宣教の使命に遣わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」